

niponica

Discovering
Japan

にほにか

no. 33



● 特集 ●

日本の文学を旅する



「源氏物語絵巻」竹河(二) 徳川美術館所蔵
©徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom

• 特集 •

にほんの文学を旅する

文学は、単に読まれるだけでなく、
さまざまな文化を交流させる場所をもつくり出す。
好きな作品を片手に、古今の日本の物語を巡る旅に、出かけませんか。

niponica
にほにか^{no.} 33

日本語で「日本」を表す時の音「にっぽん (nippon)」をもとに名づけられた「にほにか (niponica)」は、現代日本の社会、文化を広く世界に紹介するカルチャー・マガジンです。日本語版の他に、英語、スペイン語、フランス語、中国語、ロシア語、アラビア語の全7カ国語版で刊行されています。



表紙の「本棚劇場」などがある埼玉県の角川武蔵野ミュージアム ©角川武蔵野ミュージアム
表紙 photo by RK/@rkrkrk

contents

- 04 最古の長編小説に親しむ
- 06 『源氏物語』の息づく場所へ
- 08 人形浄瑠璃 人形芝居が紡ぐ物語
- 10 村上春樹を体感する
- 12 絵本の世界で遊ぼう！
- 14 アニメの舞台を巡る
- 16 にっぽん地図めぐり
街で出会えるキャラクター
- 18 召し上がれ、日本
カステラ
- 20 街歩きにっぽん
松山
- 24 ニッポンみやげ
ガラスペン

no.33 R-041125

発行／日本国外務省
〒100-8919 東京都千代田区霞が関 2-2-1
<https://www.mofa.go.jp/>



最古の長編小説に親しむ

11世紀、宮廷につかえる女官・紫式部が描いた王朝文学の傑作にして、ロマンチックな長編。日本の美意識が凝縮された作品として、今なお読み継がれる古典文学の魅力に触れてみよう。

政治・文化の中心地として繁栄してきた京都が、もっとも華やいた平安時代（794-1185）。貴族社会が確立する中で、日本独自の優雅な王朝文化が花開いた。

その最盛期である11世紀初頭、女流作家・紫式部により生まれた世界最古の長編小説が、『源氏物語』だ。物語の中心は、貴公子・光源氏の一代記。多くの女性と恋愛を繰り広げ、貴族社会での権力を手中にするも、失意の晩年を過ごすという、栄枯盛衰の生涯が描かれる。構成は54巻、登場人物は500人以上、作品世界で描か

れる時間は70年。壮大なスケールで宮中生活の内実を優美に描いた物語は多くの人を魅了し、海外においては、イギリスの文学者による英訳を皮切りに、約40言語での翻訳本が刊行されている。

また、『源氏物語』は、時代を越えてさまざまな派生作品を生み出してきた。その代表が「源氏絵」。作品世界を再現しようと、平安時代から現代に至るまで多くの作品が制作され、今や日本美術の一角を形成している。さらに、香道や茶道、能や歌舞伎といった後年の芸能に

上／17世紀の絵師・土佐光起が描いた「源氏物語図屏風 若菜上」（所蔵／フリーア美術館 Freer Gallery of Art: Gift of Charles Lang Freer）右上／13世紀につくられた『源氏物語』の写本（所蔵／名古屋市蓬左文庫）右中／アーサー・ウェイリーが英訳した『源氏物語』右下／19世紀に描かれた『源氏物語』の作者・紫式部（所蔵／東京国立博物館）

も多大な影響を与え、今ではアニメやマンガの題材にまで描かれている。『源氏物語』は、近年の日本が得意とするメディアミックスを先取りした作品であるといっても過言ではない。京都を中心に残っている物語ゆかりの場所を訪れたり、源氏絵をはじめとする美術作品に触れたりすることで、『源氏物語』の世界をよりイメージしやすくなるだろう。1000年前の王朝に思いを馳せながら、日本文化の真髄に触れてほしい。





『源氏物語』の 息づく場所へ

貴族に扮した 行列が見もの 葵祭

5月初旬、平安時代の王朝装束に身を包んだ500人以上の行列が市内を練り歩く、京都を代表する祭。正式名称は賀茂祭。1400年以上前から行われていたとされ、『源氏物語』の「葵」の巻でも登場する。

祭の行列は「路頭の儀」と呼ばれる



物語の舞台となった古の皇居 京都御所

京都府京都市は、『源氏物語』のストーリーの大部分が進行した地だ。

19世紀に東京へ遷都するまで天皇が居住した宮廷である京都御所は、光源氏誕生の地で、数々のドラマが展開された場所。現在の京都御所は再建されたものだが、それでも平安時代の様式に忠実に倣った建築は、宮廷文化の趣を今に残す。作品の雰囲気

左／多くの儀式が行われた紫宸殿
右／高御座（たかみくら）と呼ばれる、天皇の玉座
(写真提供／宮内庁)



上／貴族の女性たちが囲碁を打つ、『源氏物語』のワンシーンを再現した展示
右／当時の貴族の乗りもの・牛車（復元）

物語世界を立体的に楽しむ 宇治市源氏物語ミュージアム

『源氏物語』終盤の物語（通称「宇治十帖」）の主な舞台である京都府宇治市に建つ、『源氏物語』をテーマにしたミュージアム。当時の貴族の暮らしや装束を解説した展示をはじめ、『源氏物語』の世界を体験しながら学べるユニークな博物館だ。



紫式部ゆかりの寺院 石山寺

8世紀に創建された寺院で、滋賀県大津市にある。紫式部はこの寺に籠り、『源氏物語』の構想を練ったという。本堂には紫式部が物語を執筆したと伝わる「源氏の間」が残る。春と秋に毎年催される「石山寺と紫式部展」では、『源氏物語』関連の資料が公開される。



左／石山寺は観月の名所。紫式部が湖面に映る月を見て『源氏物語』の着想を得たという逸話も残る
右／境内にある紫式部の銅像（写真提供／石山寺）



本物の源氏絵に会える 徳川美術館

12世紀前半につくられた現存最古の「源氏物語絵巻」を所蔵する、愛知県名古屋にある美術館。尾張徳川家に代々伝わった絵巻は毎年11月に公開されるほか、『源氏物語』をモチーフにした豪華な婚礼調度品の展示もある。

上／「源氏物語絵巻」竹河巻（2-3頁を参照）



下／江戸時代の大名・尾張徳川家伝来の美術品1万件を所蔵する
(写真提供／徳川美術館)



1

にんぎょうじょうるり

人形浄瑠璃

にんぎょうしばい

人形芝居が紡ぐ物語

にんぎょうじょうるり、のうかぶきなら、
日本の3大伝統芸能のひとつだ。
にんぎょうしばい、ものがたりひょうげん、
人形芝居で物語を表現する芸は
江戸時代に生まれ、
今に受け継がれている。

写真 ● 栗原 諭



2

太夫と呼ばれる演者がストーリーを語り、弦楽器の三味線が音で情景を描き、それに合わせて、まるで生きているかのように人形が動く。3者の息がぴったりと合い、物語が生み出される日本独自の総合芸能が、人形浄瑠璃だ。

その源流は、音楽に合わせて物語に節をつけて語る「語り物」にある。当初は琵琶や扇拍子が使われたが、16世紀に三味線が登場して「浄瑠璃」が成立。さらに17世紀の大阪で人形劇と融合することで、人形浄瑠璃が誕生した。人形劇と聞くと、子ども向けの内容を想像するかもしれない。しかし、人形浄瑠璃の演目は、

歴史上の物語や事件を題材にしたものの、さらには、現代に受け継がれる名作『曾根崎心中』などに代表される男女の恋愛や、親子の情愛などを題材にしたものが多く、大人が楽しめる娯楽として発展してきた。

人形浄瑠璃はやがて発祥地・大阪から地方都市にも広がり、各地で上演されるようになる。中でも四国地方の徳島県は、江戸時代から多くの人形座（劇団）がつけられ、神社の境内に公演用の野外劇場が設けられるなど、人形浄瑠璃が盛んだ。現在も20以上の人形座があり、徳島市内の阿波十郎兵衛屋敷では、ほぼ毎日公演が行われている。

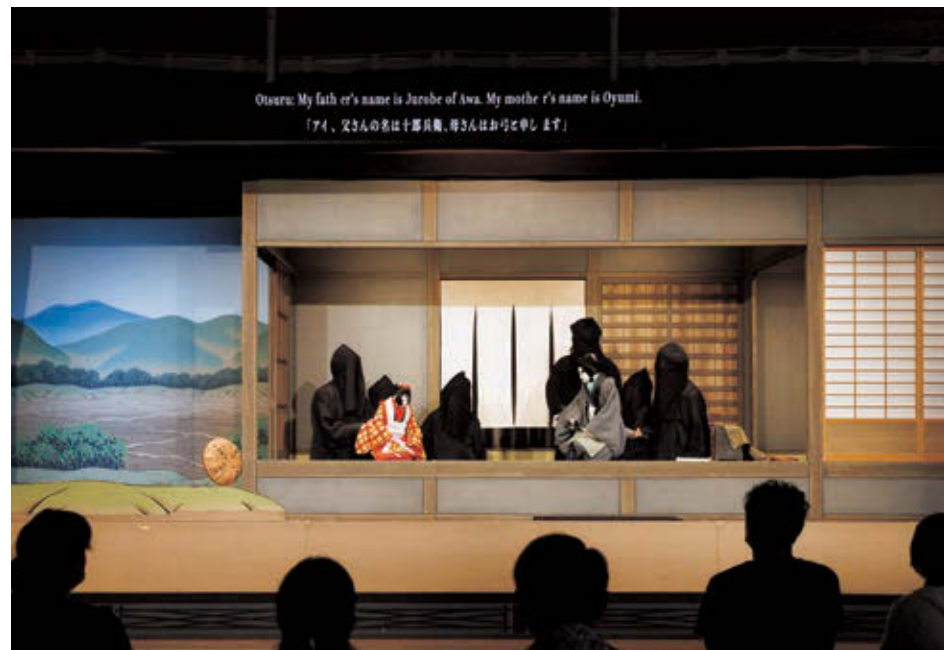


3



5

- 1/「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段」における親子の再会の場面
- 2/人形を動かす人形遣いは、黒衣と頭巾の目立たない衣装で舞台上上がる
- 3/舞台横の床と呼ばれる場所で、太夫と三味線弾きが演奏する
- 4/阿波十郎兵衛屋敷の舞台上方には、語りの字幕が日本語と英語で表示される
- 5/阿波十郎兵衛屋敷では、人形浄瑠璃の資料なども展示されている
- 6/徳島県の拝宮農村舞台。年に一度、市民が集まり、野外公演が行われる



4



おもに上演されるのは、当地で起こったお家騒動を題材に、親子の情愛を切々と描いた物語だ。親子が再会する場面で、人形が肩を小刻みに震わせ、うつむいた顔にそっと手を当てる演技は、本当に涙を流していると錯覚してしまうほど真に迫っている。こうした表現を可能にしているのは、1体の人形を3人で操るという、世界でもほかに例を見ない手法にある。頭と右手、左手、足を動かす役割を分担することで、滑らかな人間らしい動きとなり、仕草や心情を細やかに表現できる。ここに、太夫の抑揚ある語りと、三味線の余韻のある響き加わる。声と音、そして人形の動きが一体となった美しい人形

芝居の世界が繰り広げられるのだ。
人形浄瑠璃は、徳島県だけでなく全国で公演が行われている。人形芝居によって紡がれてきた、人間の内面を細やかに描く物語を味わってほしい。



6



村上春樹を体感する

世界中に愛読者がいる小説家・村上春樹のライブラリーが東京にオープンした。
建築から家具、書棚の1冊1冊まで、村上文学の粋を集めた空間に酔いしれたい。

写真●栗原 論、中央公論新社

『羊をめぐる冒険』『ノルウェイの森』『1Q84』など、40年にわたる作家活動で数多くの傑作を世に送り出してきた村上春樹。翻訳された言語は50以上。読みやすい文体で展開されていく独特で複雑なストーリーに、世界中のファンが魅了されている。

2021年10月、母校である東京の早稲田大学に村上作品を身近に感じられる国際文学館（村上春樹ライブラリー）が開館した。アーチ状の入り口をくぐり抜けると、吹き抜けの空間の左右に書架が並ぶ「階段本棚」が目に入り、飛び込んでくる。「現実と非現実をつなぐトンネルのよう」と村上作品を評する建築家・隈研吾が手がけた空間

は、あたかも作品世界へ入り込んだような感覚に陥らせてくれる。

地下に降りると、机や椅子をはじめ、棚のサイズや本人愛用の鉛筆までを細かく再現した書斎が現れる。作品が生まれる執筆環境を目の当たりにすれば、インスピレーションが湧き上がることだろう。

1階には村上作品の貴重な初版本や、各言語に訳された翻訳書が並ぶ。随所に読書スペースが用意されているので、思い思いに作品を手に取り好きなところで読めるが、おすすめの場所は、オーディオルームだ。作品への影響を幾度となく公言し、かつては「ピーター・キャッ

- 1／地下へと続く階段本棚。腰を下ろして本を読むこともできる
- 2／あたたかみのある木製のアーチで覆われた入口
- 3／50以上の言語に翻訳された本が並ぶ
- 4／机や素材やソファなど限りなく実物に近く再現された書斎
- 5／長年収集していたレコードが並ぶオーディオルーム
- 6／『羊をめぐる冒険』に登場する、村上春樹本人が手がけた羊男のイラスト。ギャラリーラウンジの壁に描かれる
- 7／2021年に映画化された『ドライブ・マイ・カー』のワンシーン
©2021『ドライブ・マイ・カー』製作委員会

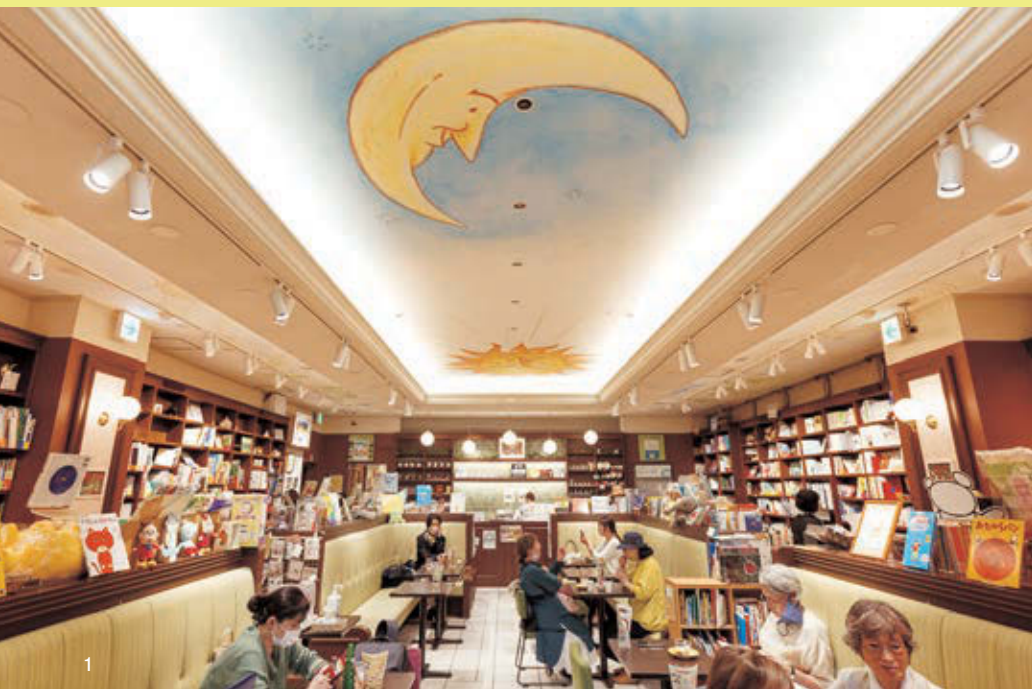
ト」というジャズバーを営んでいたほど、村上春樹はジャズ愛好家である。その村上氏が収集したレコードをこだわりぬかれたオーディオセットで聴きながら、お気に入りの村上作品を読めば、格別な時間を過ごすことができるだろう。

このほかにも、館内には学生が運営するカフェや、研究会やイベントなどで使えるラボが設けられている。単なる資料館ではなく、人と人をつなぐ場所にしたいという村上氏の考えが反映されていることだ。居心地のいい空間で、作品の雰囲気を感じながら、さまざまな人と文学の魅力を語り合いたい。



物語は世界の共通語だと僕は考えています。
そして物語は小説の真髄でもあります。だから小説というかたちを通して、僕らは世界中の多くの人々と語り合えるはずだし、理解しあえるはずです。そういう動きの一つの中心地になるといいなと考えて、この早稲田大学国際文学館を企画しました。たくさんの方々に自由に利用してもらえればと希望しています。

村上春樹



©Gomi Taro / 写真提供：グラニフ

『しろくまちゃんのほっとけーき』のトートバックと靴下(上)
『きんぎょがにげた』のイラストが描かれたマスキングテープとTシャツ(右)

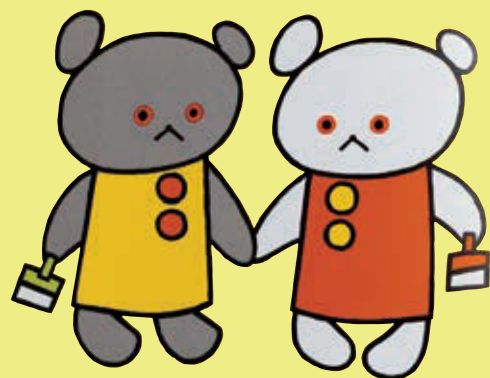
左頁上／東京都には各所に絵本の専門店があり、カフェスペースを備えた店舗もある。そのうちのひとつ、1万冊の蔵書を誇る神保町の「ブックハウスカフェ」(1,2)は、月と太陽の天井画が描かれたカフェスペースがある。青山のクレヨンハウスは、緑豊かな外観が目印(3)



©Gomi Taro / 協力：学研ステイフル

絵本の世界で遊ぼう！

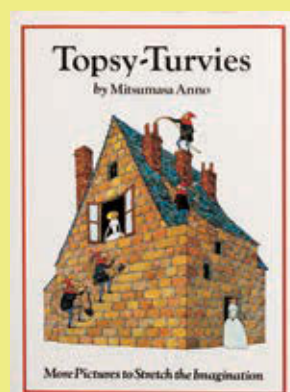
日本人は絵本が大好き。わかりやすい文とユーモラスな絵で、
個性的なテーマを表現する作品たちに、
子どもも大人も夢中になっている。
大都市には専門店が充実し、人気作品のグッズも豊富。
世界でも愛読される、多彩でゆかいな
日本の絵本の世界に出かけよう。



©Ken Wakayama / KOGUMA-SHA

写真●栗原 諭

『ふしぎなえ』
(作・画：安野光雅／出版社：福音館書店)
小人が案内するさまざまなだまし絵の世界。文字はなく、絵だけで楽しめる。写真は英語版。これまでに7言語に翻訳



『しろくまのパンツ』
(作・画：tupera tupera／出版社：プロンズ新社)
しろくまとねずみがなくしたパンツを探すお話。表紙のパンツを脱がすしけも面白い。写真はイタリア語版。これまでに11言語に翻訳



『ももたろう』
(文：松居 直／画：赤羽末吉／出版社：福音館書店)
桃から生まれた桃太郎が、犬、猿、キジを連れて鬼退治をするという、日本の古い童話をもとにした絵本。写真は中国語版。ほかに韓国語版



『スーホの白い馬』
(再話：大塚勇三／画：赤羽末吉／出版社：福音館書店)
モンゴルの遊牧民スーホと白馬の交流を描いた物語。写真はフランス語版。これまでに9言語に翻訳



『きんぎょがにげた』
(作・画：五味太郎／出版社：福音館書店)
逃げた金魚はどこにいる？ 絵の中に隠れている金魚を見つける、絵探しの絵本。写真はポーランド語版。これまでに8言語に翻訳



『らくがき絵本 五味太郎50%』
(作・画：五味太郎／出版社：プロンズ新社)
本に直接らくがきができる絵本。イラストや言葉にあわせて、自由に描き込める。写真はスペイン語版。これまでに17言語に翻訳



『しろくまちゃんのほっとけーき』
(作・画：わかやま けん／出版社：こぐま社)
お母さんとホットケーキづくりに挑戦するしろくまちゃんのお話。写真は中国語版。ほかに韓国語版など



『ぐりとぐら』
(作：中川李枝子／画：山脇百合子／出版社：福音館書店)
野ねずみのぐりとぐらが、森で見つけた大きな卵でカステラをつくるお話。写真はドイツ語版。これまでに12言語に翻訳



©Kenzo Akaba, Kiichi Akaba, Daishiro Akaba 1965



氷菓

みやがわあさいちどお ぎ ふ けんたかやま し
宮川朝市通り (岐阜県高山市)

2012年に制作された『氷菓』は、高校生の男女4人が周囲で起こるさまざまな事件を解決していくミステリー作品。原作の小説を手がけた米澤穂信の出身地・岐阜県高山市が舞台となっており、伝統的な建造物が並ぶ情緒ある街並みが描かれる。写真は、市内の中心を流れる宮川沿いで朝市が開かれる宮川朝市通り。

© 米澤穂信・角川書店／神山高校古典部 OB 会

ちはやふる

おう み じんぐう し が けんおお つ し
近江神宮 (滋賀県大津市)

競技かるたを題材に、主人公の少女が仲間たちとの交流や対決を経て、女流選手の最高位を目指す、2011年制作の作品。和歌や和服といった日本の伝統がいてねいに描かれるのも魅力のひとつ。作品の舞台となった近江神宮は、かるたと深い関わりのある天智天皇を祀る神社で、実際に競技かるたの大会が催されている。

© 末次由紀／講談社・VAP・NTV



アニメの

アニメファンの間で、
作品のモデルとなった
場所を訪ねる旅が
人気となっている。
あなたの好きなシーンにも
巡りあえるかもしれない。

舞台を巡る

『ゆるキャン△』

もと す こ やまなしけん み のぶちよう
本栖湖 (山梨県身延町)

2018年に制作された、山梨県を舞台に女子高校生たちがキャンプをしたり日常生活を送る様子をゆるやかに描いた作品。山梨県周辺の自然風景や街並みが美しく描かれるとともに、キャンプ活動のマナーや道具の使用方法なども紹介され、キャンプの面白さが多面的に描かれる。写真は、富士山と本栖湖が一望できる浩庵キャンプ場。

© あひろ・芳文社／野外活動サークル、写真提供／富士の国やまなしフィルム・コミッション

あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。

きゅううち ぶ ばし さいたまけんちち ぶ し
旧秩父橋 (埼玉県秩父市)

死んだはずの幼馴染が幽霊として主人公の前に現れ、それをきっかけにかつての仲間が葛藤を乗り越え、絆を取り戻していく物語。埼玉県秩父市が作品の舞台となっており、実在する建物や風景が多く登場する。写真は、1931年に開通した秩父市のシンボルのひとつ、旧秩父橋。

© ANOHANA PROJECT



にっぽん 地図めぐり

まちであ街で出会える キャラクター

作品を飛び出し、現実世界に出現した
キャラクターたちが、地域で愛される
街のシンボルとなっている。



ふくおか
福岡

銀河鉄道999

『銀河鉄道999』は、機械の体を求めて宇宙を旅する主人公・星野鉄郎(右)とメーテル(左)の物語を描くSFマンガ。作者、松本零士の出身地である福岡県北九州市の小倉駅にふたりの像が立つ
© 松本零士／零時社



くまもと
熊本

ONE PIECE

海賊王を夢見て冒険を繰り広げる主人公・ルフィが、2016年に発生した熊本地震の被災地を応援。『ONE PIECE 熊本復興プロジェクト』の一環で、熊本県熊本市のルフィ像をはじめ、県内各地に麦わらの一味の像が立てられている
© 尾田栄一郎／集英社



とやま
富山

ドラえもん

22世紀からやってきた猫型ロボット・ドラえもん小学生のび太が繰り広げる日常を描く、藤子・F・不二雄の代表作。出身地の富山県高岡市では、作品に登場する空き地が再現されている
© 藤子プロ

ふくしま
福島

ウルトラマン

遠く離れたM78星雲から宇宙の平和を守るためにやってきたウルトラマンが、福島県須賀川市で活躍中。作品の生みの親である円谷英二監督の出身地であり、これまでの功績や魅力を発信する「円谷英二ミュージアム」がある。
© 円谷プロ



とうきょう
東京

ゴジラ

突如として海から現れ、街を破壊する大怪獣ゴジラが、東京都・新宿に出現。ビル群の中に設置された頭部像は、今にも暴れだしそうな迫力に満ちている
TM & © TOHO CO., LTD.



とうきょう
東京

キャプテン翼

サッカーの申し子・大空翼が、天才キーパー若林源三とともに世界を舞台に活躍する姿を描くマンガ。作者の高橋陽一の出身地・東京都葛飾区に、大空翼像が立っている
© Yoichi Takahashi / SHUEISHA

とっとり
鳥取

名探偵コナン

不思議な薬で子どもの体になってしまった高校生探偵が、数々の事件を解決する『名探偵コナン』。作者・青山剛昌のふるさと鳥取県北栄町には、記念館とともに主人公、コナンの像が置かれている
© 青山剛昌／小学館



かながわ
神奈川

機動戦士ガンダム

ガンダムに乗った少年アムロとその仲間が、宿敵シャアと戦いながら成長していく物語。神奈川県横浜市のGUNDAM FACTORY YOKOHAMAでは、大地に立つ実物大“動くガンダム”を期間限定で見ることができる。2023年3月31日まで公開予定。
© 創通・サンライズ





カステラ

ぶん ごう あい
文豪も愛した
みなとまち う
港町生まれの
や が し
焼き菓子

写真●新居明子



2



3



4

1／文明堂総本店の「長崎カステラ」。近年は、食べやすいようあらかじめ切って売られているものが多い 2／カステラに糖衣で飾りつけた「桃カステラ」は長崎伝統の祝い菓子 3／『吾輩は猫である』は、主人公の黒猫が家族とそのまわりの人びとについて綴ったユーモア小説。初版は1905年に発行された（所蔵＝漱石山房記念館） 4／1900年創業、老舗の風格を漂わせる文明堂総本店。長崎には、町中に100軒以上のカステラ店がある 右頁／文豪・夏目漱石も食べたカステラ。深みのある甘さとしっとりした食感が特徴

カステラは、小麦粉と卵、砂糖などを混ぜた生地を四角い型で焼いたスポンジ状の菓子。箱入りで売られ、3cm幅ほどに切り分けて食べるのが一般的だ。発祥は、九州地方の長崎県。日本の西端にあるこの地は、16世紀後半に貿易港として開かれ、のちに時の幕府が外国との交通と貿易を禁じた鎖国期も唯一の交易窓口だった。

カステラは鎖国前の16世紀頃にポルトガル人宣教師が伝えた菓子が起源というが、ポルトガルに「カステラ」という菓子はない。同国の「pão de ló」【パン・デ・ロー】や、スペインの「bizcocho」【ビスコチヨ】を起源とする説もある。長崎では1620年代からつくられ、各地に広まった。

カステラと関係が深い文人に、日本近代文学の父と称される夏目漱石

(1867-1916) がいる。日本が鎖国をやめ近代国家として歩み始めた頃に生まれ、急激な西欧化への葛藤を作品世界に反映させた漱石。自身は大の甘党で、いくつかの作品でカステラを登場させた。代表作『吾輩は猫である』では、主人が席を離れた隙に若い客人がカステラを盗み食いする様を、猫目線でユーモラスに描いた。

また漱石は、京都に友人を訪ね、土産にカステラをもらった時のことも日記に残している。「五重塔を春の温かき空に仰ぐ／カステラを懷いて徘徊す」。好物のカステラを懷に抱いて古都を巡る漱石の姿が目につかぶ、微笑ましいエピソードである。

長崎の老舗カステラ店、文明堂総本店の代表取締役社長・中川安英さんは、カステラが現在の味になっ

たのは19世紀後半以降、材料に水飴を入れるようになってからという。「水飴を加えるとしっとりした生地になる。日本人はパサパサした食感を嫌います。水飴を入れたことで、ヨーロッパ由来の焼き菓子だったカステラが、日本の菓子になったのです」と語る。しっとりとした質感にこだわるため、焼く途中で何度か生地をかき混ぜる。それによって均一に火が通り、生地に潤いが増すのだそう。

現代でも贈答や土産物として使われることが多いカステラは、人気の盛衰が激しい菓子の中で不動の地位を保ち続けている。歴史の転換点を色濃く映した菓子と文学は、時代をへ経ても古びることなく、これからも日本人を魅了し続けるだろう。





俳句と温泉に浸る街

松山

日本最古の名湯がある街として古くから栄え、
俳人・正岡子規を育んだ文学の聖地。
言葉とお湯が沸き出る松山で、豊かな時間を過ごしたい。

写真●栗原 論、PIXTA、photolibrary



- 1/スタジオジブリのアニメ作品『千と千尋の神隠し』のモデルのひとつとなったとされる「道後温泉本館」(現在は保存修理工事を行いながら営業。外観は、『火の鳥』とコラボした「道後REBORNプロジェクト」のもので、現在は終了変更されている)
- 2/道後温泉本館内の「神の湯」。壁には白鷺が描かれた陶板画が貼られている (2022年現在、保存修理工事中。写真提供/松山市)
- 3/市内を走る路面電車「伊予鉄道」。蒸気機関車を模した車両も走る
- 4/道後温泉本館の屋根にある白鷺像。白鷺が温泉で傷を治したという伝説から、道後温泉のシンボルとなっている (写真提供/松山市)
- 5/松山を舞台にした夏目漱石による小説『坊っちゃん』からその名がとられた「坊っちゃんだんご」



6



12



13

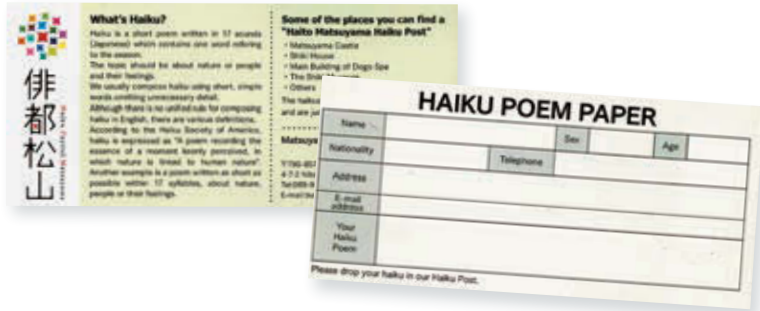


14



15

6/松山市駅前に立つ正岡子規の句碑。「春や昔 十五万石の 城下哉」。松山を象徴する一句
7/松山城内ははじめ、市内90カ所に設置されている「俳句ポスト」。俳句ポストに投句するための用紙は各国語で用意されている



8/標高132mの城山上に立つ「松山城」。城からは市内が一望できる

12,13/温州みかん、伊予柑など、異なる品種のみかんジュースを味わえる「10FACTORY」
14/「ことり」の鍋焼きうどん。いなりずし(左)とのセットメニューが定番
15/土鍋で炊き込む、「秋嘉」の鯛めし

愛媛県松山市は、日本列島の南西に位置する四国地方最大の都市だ。西は穏やかな瀬戸内海に面し、1年を通じて温暖な気候に恵まれる。江戸時代(1603～1868)に建造された松山城を中心に広がる市街地を、路面電車がゆっくりと走り抜けるようすは、穏やかなこの街の日常的な風景だ。

そして、松山のシンボルといえば、道後温泉である。日本最古の歴史書『日本書紀』や、11世紀に書かれた『源氏物語』(4頁参照)にも記されている由緒のある温泉で、現在も、旅行者は道後温泉本館を中心に点在する共同浴場や足湯を巡って自由に楽しむことができる。

街を散策すれば、至る所でさまざまな句碑(俳句が彫られた碑)に出会うだろう。明治時代(1868～1912)に俳句の新たな地平を開いた俳人・正岡子規の生誕地である松山は、「俳句の都」でもあるからだ。俳句とは、日本で誕生した定型詩で、季語(季節を表す言葉)を織り交ぜながら5・7・5の合計17文字で表す文学のこと。四季の移ろいに思いを寄せ、時々感情に耳を傾ける。自らの心をシンプルに表現する、世界で最も短い詩の形式は、近年は若い世代にも人気がある。

俳句に興味があるなら、一句詠んでみるのも楽しい。外国語の場合、17の音節で表現するのがルール。周囲

を観察し、その情景を季節の言葉を使って表現してみよう。そして、松山市内の各所に設置された「俳句ポスト」に、自分の俳句を投句してみるのもいい。選評会に出品されて、入賞すれば記念品が贈られる。外国語の入選句も増えているというので、ぜひ挑戦してみてもいい。

市内中心部から少し歩けば、日本の神話に登場し、愛媛県の名称由来にもなった愛比売命という神様を祀る「伊豫豆比古命神社」がある。毎年2月頃に催される椿まつりは、春を呼ぶまつりとして地元の人が待ち望む風物詩だ。さらに小一時間電車に乗れば、海を望む絶

景の「下灘駅」やおよそ100年前に建てられた芝居小屋「内子座」などにも足を延ばせる。

松山は、食の名物にも事欠かない。柑橘フルーツの甘さと酸味がバランスよく、日本有数の生産量を誇るみかんをしばったジュースや、瀬戸内海で育った鯛を米と炊き上げる「鯛めし」は松山自慢の味覚だ。甘いだしが地元の人びとに愛されている「鍋焼きうどん」に舌鼓を打つのもいい。

街を散策しつつ、旅のひとつときを俳句に残せば、松山の思い出はさらに印象深く記憶に刻まれることだろう。



9/「伊豫豆比古命神社」の通称は椿神社。願い事を書いて奉納する絵馬も、椿の花をかたどっている
10/瀬戸内海が目前に迫るJR予讃線の「下灘駅」(写真提供/JR四国)
11/「内子座」は20世紀初頭に建てられた木造建築の芝居小屋(写真提供/内子町)



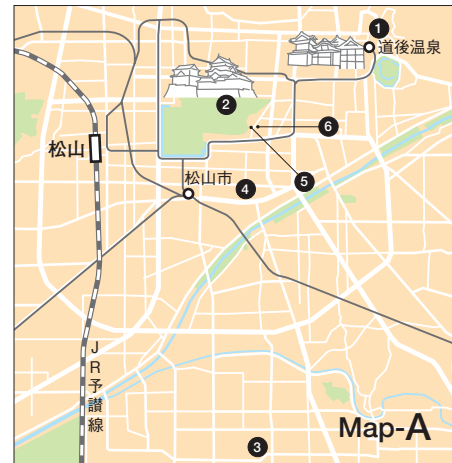
9



10



11



松山エリア地図

- ①道後温泉本館
- ②松山城
- ③伊豫豆比古命神社
- ④ことり
- ⑤10FACTORY
- ⑥秋嘉

●交通案内
羽田空港から松山空港まで空路で約1時間30分。
松山空港から松山駅まではバスで約15分。

●問い合わせ
松山市公式観光WEBサイト
<https://matsuyama-sightseeing.com/>



左下／ペン先の溝の数は8～12本
右上／ペン先にインクをつけると、
毛細管現象によりインクが溝に吸い
上げられる
右下／1度インクをつけると、はが
き1枚分ほどを書き続けることがで
きる



にほんはっしょう
日本発祥！

うつく つか
美しくて使いやすい

ガラスペン

写真●北郷 仁



愛用のペンとインクで、日記や手紙を書く。デジタル機器で文字を書くことが当たり前となっている今、あえて「手書き」を楽しむ人が増えている。そんな特別な時間に彩りを与えてくれるのが、ガラスペンだ。

ガラス製のペン先にインクをつけながら書くこの文具は、美しいだけでなく、とても実用的。書き心地が滑らかで、インク持ちもいい。ペン先を水ですすいで拭くだけで簡単にインクを変えられるので、気分や用途に合わせてさまざまな色を楽しめる。ペン先の溝にインクが吸い上げられ、鮮やかな色に染

まっていくながら見られるところも、ガラスペンの醍醐味といえるだろう。

20世紀初頭に風鈴職人が考案したとされるガラスペン。当初はペン先だけがガラス製だったが、やがて軸もすべてガラスでつくられるようになり、芸術作品のように美しい文具となった。ひとつひとつが職人の手づくりなので、同じ形状や色合いのものは存在しない。ガラスペンとの出会いは一期一会。見て楽しく、握っているだけでうれしくなる1本を見つきたい。

協力：ガラス工房 スタジオ嘉硝

